

アカゲラ通信



ハリギリってどんな木？

シマエナガやルリビタキがその実を食べることでこの秋から冬に一気に注目を浴びた木、ハリギリ。今回は、ハリギリのお話です。

- **ハリギリ**…ウコギ科の落葉高木。沢地や谷の斜面によく出る木で、旭山にある大木はほとんどが斜面にあります。北海道では多く見られます。
- **葉**…複葉ではない一枚の葉としてはホオノキに次いで大きく、葉の形はイタヤカエデに似ていますが「鋸歯」があるのが特徴です。
- **花と実**…夏にクリーム色の花が咲き、秋に黒い小さな実がなります。
- **樹皮**…やや赤みのある茶褐色で深く大きく裂けます。
- **実**…アカゲラ的好物で、コゲラ、ハシブトガラス、メジロ、冬まで実が残っていればツグミやウソも食べるなど、鳥たちに人気の木の実です。シマエナガが食べるのは今冬初めて見ましたが、それまであまり知られていなかったようで、ネットでの情報も少なかったです。



花



実



実のアップ



樹皮



冬芽と「針」

● **名前の由来**…たんすなどに使うキリ「桐」に似た白っぽい材で樹皮に針があるので「針桐」。この針は成長に伴い少しづつ減ってゆき、大木になるとなくなります。

● **セン**…木材になると「セン」と呼ばれるようになります。材は白っぽくて加工しやすく、"Sen"として今でも主に北海道産の材が輸出されています。1970-80年代に日本で作られたエレキギターに多く使われていました。また、ケヤキの代わりに和太鼓にも使われています。

● **偽タランボ**…同じウコギ科で春に大人気の山菜タランボ＝タラノキに似ているため、「偽タランボ」と呼ばれこともあります。しかし味は劣らずおいしく、「偽」はちょっとかわいそうな気もします。

● **がんばれハリギリ**…第1駐車場近くのトイレの横に胸高直径1m以上のハリギリの大木があります。「森の家 ココから218m」の看板がかけられたこの木はしかし、10年ほど前から勢いが弱り部分的に枯れてきましたため、昨年、樹木医さんに、樹皮がはげた部分を覆う治療をしてもらいました。この先も枯れることなく立ち続けていてほしいものです。

※園内ではピクニックテラス周辺他各所に大木が数本あります。



ハリギリの実を食べるアカゲラ雄



模様が「木」に見える枯葉



森の家の看板とハリギリ大木

2021年、6年ぶりの初日の出

2021（令和3）年元旦、西の空には月が見える一方、南東の空は雲に覆われていましたが、地平線の上少しだけ雲が切れ、7時6分、めでたく初日の出を拝むことができました。ただ、8時過ぎて急に天気が崩れ雪模様になりました。

500人以上来訪、6時過ぎに駐車場入場待ちの車列ができました。

なお、今年は2日によりくっきりとした朝日が見られ、数十人が日の出を見に来ていて、7時に駐車場がほぼ満車となるほどでした。

今年はよい年になるかもしれません。

2021年初日の出→



旭山野鳥メモ② オジロワシ

オジロワシ White-tailed Eagle *Haliaeetus albicilla* タカ目タカ科

北海道でもっとも身近なワシ。道内で繁殖しており、道東道北オホーツク地方では大きな川ごとにひと家族がいる感じ。札幌近郊でも茨戸川緑地公園や石狩市はまなすの丘公園、長都沼などで夏にも見られる。

冬鳥としても多く渡来し、冬にオオワシとともに流氷に乗っている姿が有名だが、それらの多くは越冬のために北から来ている個体と思われる。

魚食性のワシで河口部や海辺に多いが、鮭のほっちゃれやシカの残滓など内陸にも餌を求めて行動し、旭山でもときどき見られる。しかし

旭山では夏の観察例は今のところない。先日、藻岩山方向から魚をつかんで北へ飛んで行く姿が旭山上空で観察されたが、いい餌場を見つけたのかもしれない。カモなどの鳥や小動物を捕食することもある。

名前の通り白い尾が特徴だが、幼鳥は尾羽の縁が茶褐色で成長に従い真っ白になる。幼鳥は嘴も黄色くない。年をとると頭から首にかけて白みが強くなる。オオワシも尾が白いが、オオワシ成鳥は翼の前縁に白い帶状の部分があるがオジロワシにはない。尾羽はオジロワシも菱形に見えるがオオワシの方が長くて大きい。

翼を広げると2m40cmにもなり、風に乗って羽ばたかずに帆翔している姿は迫力があり、見ていてこちらも厳かな心持になる。カラスが周りにやってきてモビングするがまるで動じない、余裕だ。

雄大なオジロワシを見られる二百万都市札幌。時々空を見上げてオジロワシを探してみてはいかが。



1月の野鳥トピックス

野鳥についての詳しい情報はホームページの野鳥情報をご覧いただか、森の家までおたずねください。

★この冬は全般的に例年より冬鳥の見られる個体数が多かったです。

★ミヤマホオジロ(右写真:雄)=1月に旭山で観察されたのは初めてです。

★ヒレンジャク=1月上旬まで50羽以上見られていました。

★ベニヒワ=1月に入り観察機会が増えました。今年は越冬するか。

★マヒワ=一時100羽以上いましたが今は50羽以下です。

★シメ=1月に30羽ほどの群れが見られました。

★ツグミ=12月に50羽以上見られましたが1月に入り数が減りました。

★亞種ハチジョウツグミ=1月上旬まで見られていました。

★キクイタダキ=園内の常緑松で観察機会が増えました。

★クマゲラ=園内西側エリアで観察情報が多いです。★キバシリ=西側エリアで時々見られます。

★シマエナガ=今年は出ない日もあるなど観察頻度は昨年よりは低いです。



スノーシュー無料貸し出ししています

旭山記念公園森の家では今年もスノーシューを無料で貸し出しています。開館時間内のみ。予約不要。



スノーシューを使うと、夏には入れない森の中や谷にも行くことができ、夏には見られない景色を見るすることができます。ただし、歩けるのは旭山記念公園と札幌市旭山都市環境林のエリア内だけで、天然記念物の藻岩山は登山道を外れて入ることができません。また、公園に隣接する私有地にも入らないようお願いします。

ところで、「靴は」左右2つ一組=一足で「シューズ」といいますが、同じ2つ一組で使うのになぜ「スノーシューズ」とはいわないのであるのか? 英語でもそのものを表す言葉は単数形の "snowshoe" ですが、使用する場面では "snowshoes" と複数形になります。日本語にはそもそも複数形というものが存在しないことと、「シューズ」とすると「靴」になってしまうので、「スノーシュー」と単数形のままなのかもしれません。ちなみに、スノーシューで歩くことを英語で "snowshoeing" 「スノーシューイング」といいます。



公式サイト

「アカゲラ通信」 第87号 2021(令和3)年1月11日発行

発行:(公財) 札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

住所:〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

連絡先:電話 011-200-0311 (土・日・祝日10時~16時) FAX 011-200-0351

<http://www.sapporo-park.or.jp/asahiyama/>